

2016年2月の山西省

1月19日に前学期が終了し、26日に日本に一時帰国しました。

以前買った上海から神戸の船のチケットが手元に残っていたので、上海から船で日本に帰国しました。太原駅から寝台列車に乗り、13時間で上海駅に着きました。

中国の寝台列車について中国留学経験のある友人と話すと、賛否両論ですが、私は割と中国の寝台列車が好きです。

一つ目の理由は、普段行く機会があまりない田舎町を通り、その景色を見ることができるからです。

二つ目の理由は学内では聞けない中国語に出会えるからです。

中国人は非常に賑やかで、就寝時間以外は大抵どこからか会話の音が聞こえてきます。列車に乗る乗客は、赤ちゃんから高齢者まで幅広い年齢層、また出張のために列車に乗る人、地方から出稼ぎに来た人、おばちゃん同士の旅行等々、さまざまな年齢層、方言、立場の違う人の中国語に出会うことがあります。

中国語は方言が非常に多く、方言によっては全く聞き取れない場合もあります。また強い方言訛りを持っている人は高齢者か、地方出身の高校、大学を出ていない方です。私と同じくらいの年齢で中卒の人は、中国では日本の総人口より多いと考えます。中学卒業時から働いている人と、大学に通っている22歳とでは考えること、趣味など違いが出てくることは間違いないことです。残念ながら山西大学の中ではそういった方々に出会うチャンスがなかなかありません。学内では聞けない中国語を列車の中で触れることはリスニング力を向上できる事ことはもちろん、学内では知り合えないだろう人との会話の中からその人たちの考えや、興味を持っていることがわかります。

出稼ぎの人たちはどんなトランプゲームが好きなのか？おばちゃんたちはどんなテレビドラマが好きなのか？小さい子たちの好きなお菓子は何か？おじさんたちはどんな酒が好きなのか？またつまみは何が人気なのか？列車に乗る回数を重ねるごとにわかってくることがあります。こういったことを理解することは中国人の方たちを理解し、より良い関係を築くための助けになると感じました。

大久保 豪



河北省張家口にて



寝台列車で太原に向かう際の途中駅にて